

都市における里山の利用と管理 —千葉県松戸市「関さんの森」の活動を事例として—

佐藤孝吉¹・谷島陽一¹・江尻さおり¹・山田純稔²

1 東京農業大学地域環境科学部

2 関さんの森を育む会

要旨：都市における森林のあり方を見いだすために、千葉県松戸市幸谷に位置する関さんの森と「関さんの森を育む会」を事例に検討した。具体的には活動報告書に記載されている日報を、森林に対する管理と利用および活動の実施者の3つに焦点をあて、それぞれの特徴を分析した。その結果、年間約130日の活動の中で、管理が50%、利用が34%、その他16%であること、管理の多くは「関さんの森を育む会」が実施し、利用は近隣、遠方からの来訪者が「関さんの森を育む会」と一緒に行っていた。活動内容は様々で深化してきており、管理と利用の区分は明確な分類が困難であることが分かった。

キーワード：都市の森林、森林管理と利用、関さんの森を育む会、千葉県松戸市

Management and utilization of urban Satoyama:

A case of “Sekisan’s Forest Matsudo, Chiba

Takayoshi SATO¹, Youichi YAJIMA¹, Saori EJIRI¹, Yoshinori YAMADA²

1 Faculty of Regional Environmental Science, Tokyo University of Agriculture

2 Sekisan’s Forest Association

Key-word: Urban forest, forest management, Matsudo City, Sekisan’s forest association

I はじめに

都市化に伴い身近にあった森林が宅地等の開発のために減少してきている。都市における森林は、地域環境保全や社会文化的な役割として貴重な存在である。生活の変化に伴い森林の利活用も変化してきているので、このような森林を保全するためには、都市における森林と関連する新しい里山のあり方を見いだす必要がある。そのためには森林と人々とのかかわりについての現状分析することが必要と考えた。本報告では、森林と人間とのインターアクションの①管理と②利用、それぞれの③活動の実施者の3つに焦点をあて、それぞれの特徴を把握することを目的とした。

森林の所在地が都市にあること、長期的かつ活発な活動、詳細な活動報告書が存在しているので関さんの森および森を運用する「関さんの森を育む会」を事例の対象にすることにした。

II 関さんの森および「関さんの森を育む会」の活動

関さんの森は、千葉県松戸市幸谷に位置する住宅地に囲まれた2.1haの里山である。所有する関家は、1967年

に1.1haの森林部分を自然の遊び場として開放し、1994年に公益財団法人埼玉県生態系保護協会に寄付した。1996年にこの森の維持管理のため「関さんの森を育む会」が誕生した。関さんの森の敷地には、森林の他、湿地、湧水池、農園、江戸時代に建てられた蔵と門があり、年間4,000人ほどの来訪者がある(1, 2)。関さんの森は、針葉樹(スギ・ヒノキ)、広葉樹(クヌギ、エノキ)、果樹などの多様な植生と地形を有し、常時開放区域と制限区域がある。「関さんの森を育む会」は、全体を活用し、その活動内容も多種多様である。なお、関さんの森を通る都市計画道路の計画があったが、一部迂回する形で都市計画が変更された。また、関さんの森のうち1.7haは、都市緑地法の「特別緑地保全地区」に指定されている。

III 活動の分析結果

「関さんの森を育む会」の報告書には、1996年から現在(2020年)にわたり活動内容が明記されている。25年間の活動日数は全体で2,669日であった。その中から2000年(100日)、2005年(71日)、2010年(147日)、2015年(164日)、2020年(169日)の5か年間(651日、

24.4%)を抽出し分析の対象とした。管理は、森林を対象とする作業を基本とし、関連する施設に対する維持管理の活動を含めた。利用は、森林を活用する活動を基本とし、森林および関連する施設からの生産物だけでなく、森林地で活動する観察や体験など森林を空間的に利用する場合を含めた。実施者の分類は、関さんの森との関係を基本とし、直接関連団体、徒歩圏内の近隣団体、交通機関利用の遠方団体の3種類とした。

表-1には、それぞれの年間における森林の管理と利用および活動日数とその割合を示し、活動内容を表-2に示した。活動記録によると「関さんの森」での活動は年間130日で、3日に1回は何らかの活動が森林で行われていた。森林の管理は、伐採、剪定、草刈、関連設備の設置、清掃、調査などで年間平均65日とおおよそ半分を占めていた。伐採、剪定、移植など高度な技術や情報を必要とし、外部に発注する場合もあった。森林の利用は、自然観察、体験会、タケノコや梅の収穫、各種イベントなどで44日(34%)、森林とは関連しないその他の活動は、外部での各種報告業務などで16%であった。活動の実施者について、森林管理は、「関さんの森を育む会」のみが38%と近隣や遠方よりも多いのに対し、利用の回数は、「関さんの森を育む会」のみ(8.7%)よりも近隣(12%)、遠方(14%)が多くなっていた。近隣の参加団体は、利用を継続する 경우가多く、事前打ち合わせ、イベントの実施、報告会などの流れの中でアイデアを創出させるなどして活動の内容を深化させてきていた。遠方からの参加者は、利用回数が少ない場合が多かった。

IV 考察および今後の方向性

活動の分析には多くの問題点を有することが確認できた。報告書における活動の記載方法は、徐々に変化して現在の形へとまとめられてきていた。また、活動の質的、量的ファクターは明記されていない場合が多かった。したがって、活動内容の経年変化を分析する場合は、別途詳細なインタビューなどを踏まえて判断すべきと考えた。

活動を森林に限定することは困難で、関連する農地、果樹園、蔵、門、垣根、湧水池などは森林内に包括していることや、道路脇の植え込み、看板づくり、ロープ張りなど森林に関連さまざまな活動も行っていた。

管理と利用については、森林での作業が体験になっていたりと、管理と利用が関連した活動になっていたりと、森林の管理を利用ととらえることも可能であると思われた。したがって、管理と利用を明確に区分することは、困難で、個々のとらえ方によって異なると考えられる。

つまり報告書に記載された内容を管理と利用の2極化したインターアクションとして判断するよりも、両者の割合や方向性で示したり、参加者のとらえ方で分析することにより、活動の特徴が把握できると考えた。

活動の実施者について、容易にアクセスが可能な近隣の学校による利用が多いことは、必然的と考えられる。

「関さんの森を育む会」の中にもいくつかの分科会が存在し活動の多様性が確認できた。

樹木の大径化、植生など森林は常に変化しており、同時に活動団体や近隣との関係なども変化してきている。都市における森林を保全するためには、柔軟で無理なく活動できる体制を整えること。多様な人材がかかわることによって管理をプラス思考の利用へと導くことができ、そのような土台を作ることが重要であると思われた。

引用文献

- (1) 木下紀喜(2020年6月)市民が守った市街地の里山。大日本山林会。山林No.1633:45-53
- (2) 関さんの森エコミュージアム関さんの森を育む会リーフレット(2021年10月20日閲覧: <http://www.seki-mori.com/news0.html>)

表-1 森林の管理、利用と訪問者の位置づけ
日数(上:回数)と割合(下:%)

年	森林の管理				森林の利用				その他	総計
	関連	近隣	遠方	合計	関連	近隣	遠方	合計		
2000	18.5	2.0	11.5	32.0	12.0	19.5	13.5	45.0	23.0	100.0
	18.5	2.0	11.5	32.0	12.0	19.5	13.5	45.0	23.0	100
2005	30.5	5.5	4.0	40.0	5.0	14.0	4.0	23.0	8.0	71.0
	43.0	7.7	5.6	56.3	7.0	19.7	5.6	32.4	11.3	100
2010	48.5	1.0	28.5	78.0	9.5	16.0	23.5	49.0	20.0	147.0
	33.0	0.7	19.4	53.1	6.5	10.9	16.0	33.3	13.6	100
2015	60.0	2.0	6.0	68.0	8.5	10.0	30.5	49.0	47.0	164.0
	36.6	1.2	3.7	41.5	5.2	6.1	18.6	29.9	28.7	100
2020	91.5	3.0	12.5	107.0	21.5	15.5	18.0	55.0	7.0	169.0
	54.1	1.8	7.4	63.3	12.7	9.2	10.7	32.5	4.1	100
平均	49.8	2.7	12.5	65.0	11.3	15.0	17.9	44.2	21.0	130.2
	38.2	2.1	9.6	49.9	8.7	11.5	13.7	33.9	16.1	100

*回数は、1日合計が1となるように計算している。例えば2種類の活動があった場合はそれぞれ0.5でカウントしている
**関連は、「関さんの森を育む会」関連団体、近隣は徒歩圏内で訪問可能な場合、遠方は公共交通機関利用で訪問の場合

表-2 関さんの森を育む会の主な活動内容

事業	森林に対するもの	関連すること
管理	伐採(支障木、枯死木など)	清掃(ごみ、落ち葉など)
	剪定(梅、枯れ枝、枝打ち)	施設作成(ベンチ、ロープ、橋、看板)
	草刈(梅林、竹林など)	花壇
	移植	蔵や門の整備
	森林調査	管理のための打ち合わせ
利用	観察会	イベント、学習会、合唱、合奏
	体験会	花見、夕涼み会、ソーメン流し
	木材、竹材、どんぐり	森の素材を利用した記念品作成
	梅等の果実やタケノコ収穫	フリーマーケット参加
	竹細工、竹炭づくり	利用のための打ち合わせ、報告会 会報、HP、パンフレット作製